

相場：皆さん、こんにちは。株職人の相場師朗です。

飯村：ナビゲーターの飯村真由です。これから4話にわたってお届けする無料講座では、多くの億超え投資家を育てられた相場先生が実践されているトレード手法を徹底解剖してみたいと思います。

相場：俺、解剖されちゃうんだね。

飯村：はい。

相場：はい、分かりました。

飯村：売買のポイントや判断基準の細部まで迫っていきたいと思いますので、ぜひご期待ください。

相場：この無料講座をご覧いただいただけでも、皆さんの人生に、そして飯村さんの人生にそこそこ大きな変化が現れるのではないかなと思っています。自信作ですから、ぜひ毎回、最後まで聞いていただけたらと思います。

飯村：それでは早速、相場先生のご紹介をさせていただきます。

相場師朗先生は投資歴30年以上の株職人でいらっしゃいます。国内外の金融機関でディーラー、ファンドマネージャーとして活躍され、早期リタイアの後、現在、自己資金の運用を行われています。もともと職人肌気質だったこともあり、株の道（株道）を極めるべく、狭く深く株の技術を磨く株職人です。江戸時代からのうねり取りをさらに進化させた手法は、再現性の高さと練習すればトレード技術が上がると大評判で、今まで教えたお弟子さんは3000名に上り、日々増え続けています。お弟子さんの中にはうねり取りを練習することで億の資産を築いた方や、億の資産をさらに増やしたいと教えを求める弁護士や医師の方も多く在籍しているようです。

相場：今、飯村さんに紹介していただきましたけれども、何かいい紹介の仕方だったなと思ってうれしいです。狭く深く株の道を極める。私は結構硬派で、ここが大好きなのです。狭く深く。だって、お医者さんで、内科も、外科も、整形外科も、婦人科もやっていて、普通に全部やっているお医者さんよりも、これ専門の人に診てもらいたい感じがするではないですか。狭く深くというのがやはり物事を極めていく一つの大きなポイントになります。私は株職人といつも自分で言っています。

評論家、アナリスト、たくさんいらっしゃいます。飯村さんもアナリストですけれども、

私はアナリストの中にも、自分で実弾を張っていない人もたくさんいると思います。それからもうかっていない人もいると思います。そういう人たちの推奨で株を買っている人は非常にかわいそうだなと思います。

私なんかは実際に現場でお金を張って、切った張ったをやっています。この視聴者の皆さんと同じ立場。鉄砲玉が飛び交う中を戦っている、そういうプロの株職人。これが自分の一番の勲章かなと思っています。

ご紹介いただいた中にもありますが、弟子もたくさんつくってまいりました。例えば私の一番弟子で、もう 10 年ぐらい教えているのですけれども、彼女はもう 4 億以上の利益を出して、今も毎日 50 万ぐらい利益を出しています。海外に逃亡……ではなくて、移住をしてしまいました。そして、もう一人は、今度は皆さん誰でも知っている美容外科の院長先生。この方は、私の弟子になって、院長先生を辞めてしまいました。

飯村：辞めてしまったのですか。

相場：辞めてしまいました。

先ほどの女性も、この院長先生も、トレードはスマホ。これでできてしまいます。よく一般の方は、プロのトレーダーやすごく成功している方だと、部屋に画面がたくさんあって。

飯村：そうですね。囲まれているイメージですね。

相場：でしょう？ あれは形だけですから。技術があればもうスマホで出来てしまいます。私もパソコン 1 台ですよ。パナソニックの Let's note だけ。しかも 1 世代前のパソコン。あと携帯だけという感じです。

あと大手デベロッパーの役員。三井や三菱、住友、ああいうところの役員のおじいちゃんも弟子で、頑張って、今、利益を出しています。それと東大の先生もいらっしゃるし、それから電気屋のおじさんもいるし、美容師の方もいらっしゃるし、それから主婦の方も多いです。最初はなかなかよちよち歩きなのですけれども、一生懸命、私の勉強を学んでくれて、今はもう利益を出して、ウハウハな状態になられた方も多いです。

飯村さんはフィスコでアナリストをされているということですが、自己紹介をしていただけますか。

飯村：ありがとうございます。金融情報配信会社のフィスコで、私はリサーチレポーターをさせていただいています。私たちリサーチレポーターというのは、難しく思われがちな株や為替の世界を、女性目線で分かりやすくお伝えできるように心がけて活動しています。日々のマーケット情報を Facebook で配信を行っているほか、Yahoo!ファイナンスの株価予想や金融雑誌、また毎月、クラブフィスコで発売をしています単独レポートなどで銘柄をご紹介

しています。

飯村：相場先生はとても成功されていると思うのですが、なぜご自身の成功した投資手法を多くの方にお伝えしようと思ったのですか。

相場：最初は教えるつもりはなかったのです。ところが、私の親しい方のご紹介で、ある投資顧問会社の社長さんが私のオフィスにいられて、ぜひ株の教材を作らないかと、私は親しい人の紹介だったものだから、結構安請け合いをしてしまいました。

ところが、私が一向にその教材を作り始めないものだから、その投資顧問会社の社長さんが会議室を取って、そこに私を缶詰にして「今日 1 日で撮ってしましましょう」。閉じ込められたから、1 日一生懸命撮りました。そして出したのが「7step 株式投資メソッド」という教材です。

これがかなり売れまして、たくさんの方から良かったという感想を頂いて、実際にリアルセミナーを開催してもらったら、たくさん全国から集まってくれて、結果が出ました。

目の前で私が提供した自分の一番得意なもので皆さんが成功して喜んでくれているのを見て、50 歳を超えて初めて人のために役に立つという、こういう喜びがあるというのを感じました。そこから自分のトレードもさることながら、自分の持っているものを社会に提供して、社会のどなたかが喜んでくださる。これが本当にうれしくて、それ以来、その社長さんにお世話になって、いろいろセミナーをしています。

今、モーニングスターというアメリカにもある会社さん、日本にも『モーニングスター』という株式情報、投資情報の本がありますが、ここでメインの講師をしていたり、それからラジオ日経で、毎週火曜日、自分の番組を持っていたり、もう既に人に教えて、その方が成功して喜んでいただくのが生きがいになっている。そんなおじさんになりました。これが皆さんにお教えするきっかけです。若いうちにリタイアをしたときは、その資金で銀座のクラブを買収したり、いろいろ会社をしたりとやっていたのだけれども、今が一番楽しいですね。

飯村：すてきですね。

相場：今日は飯村さんに会えたしね。そんな感じでしょうかね。

飯村：それでは、第 1 話の本題に入っていきたいと思います。今、200 万円を 5 年で 1 億円にするチャンスだと聞いたのですけれども、先生、本当にそんなことができるのでしょうか。

相場：本当かと、この疑いの目ですね。

飯村：5年で50倍ということですね。

相場：そういうことですね。これは十分いくと思っているのですよ。その理由を今から皆さんと飯村さんにお話をしようと思います。

皆さんがこの時期に成人で株の取引ができるという立場にあるのは非常にチャンスです。これはまず安倍さんが首相になられたのが2012年末です。その後、2013年から日銀の黒田さんと一緒にアベノミクスを展開してきました。株価はそこからぐんぐん上がって、2万円を超えてきました。これはバブルです。もうちょっとバブルだと思います。

バブルというのは、実は必ず崩壊します。私が経験したバブルは1989年。日経平均株価はどれぐらいだったと思いますか。

飯村：3万円を超えていたのですね。

相場：そう。まだ赤ちゃんだったかも分からないけれども。

飯村：そうですね。6〜7歳ですね。

相場：あのとき、私はもう既に金融機関に勤めていたのですけれども、日経平均株価は3万9000円いって、評論家や証券会社の人たちは6万円いくのではないかと大騒ぎしていました。そんな時期がありました。でも、そのバブルも崩壊しました。

飯村：ほうかい(笑い)

相場：予定どおりです。崩壊した。ちゃんと書いてあるもんな、ここにな。

相場：それでその後、崩壊して、その後、2000年にITバブルというのがありましたね。ぐんぐん上がっていきました。ところが、またこれも崩壊しました。

飯村：ほうかい(笑い)

相場：うん、そう。また低迷したのだけれども、その後、小泉純一郎さんが首相になられて、そしてあのときは銀行がたくさんつぶれたのだけれども、りそな銀行に公的資金を入れて、そこから株価がどんどん上がって行って、最後は1万8300円まで上昇して、5年間で何と2.4倍になりました。

その後、リーマンショックでしばらくずっと下げた後、今度はアベノミクスということで、私がいわゆるビジネスマン人生を送り始めてからも1989年、2000年、2003年、そして今回のアベノミクスと4回のバブルを経験しています。過去3回は全て崩壊しています。

大体、上昇を始めて 5 年ぐらいで伸び悩んで、横ばいになって、そして下げていきます。そうしますと、アベノミクスが始まったのが 2013 年とすれば、大体 2017 年ぐらいでアベノミクスが 5 年目を迎えます。このときは恐らく消費税が増税される年でもあります。また、最近、チャイナショックがありました。これは何とか中国の政府がいろいろなだめながら、いろいろやってくださるうけれども、あと 2 年ぐらいのときにまた今度はのっぴきならない状況になるのではないかと。2017 年ぐらいというのは、世界的に、あるいは国内的にもいろいろな難題が差し掛かります。そこにバブルが起きて 5 年目。非常によろしくない年になる可能性があります。

飯村：そうなのですね。世間的には、2020 年のオリンピックに向けては日経平均の上昇が続くのではないかとという話も聞かれますけれども、先生的にはそうとも言えないと。

相場：言えないですね。13 年から 8 年。今のお札をたくさん印刷して、いわゆる金融相場をつくっているものに対しては限界があります。

株価というのは上がってきます。これも上げ下げして上がっていきます。これは買う人が多いから上がります。途中の下げというのは、買った人がお墓まで持っていくわけではないから、利益確定するから下がる。でも、また上がると思う人がいるから上がる。まだ前に買って利益確定していない人が利益確定するから下がる。

従って、上げ下げして上がっていきます。やがて買う人が減ってきます。売る人が増えてくると、今度は上げ下げして上がるのではなくて、横ばいで上げ下げするようになります。そして、今度は売る方が多くなると上げ下げして下がっていきます。

こういう状況を長い歴史の間、ずっとつくっているわけです。ちょうど 17 年ぐらいが限界で、そこから横ばいになって、そしてオリンピックが終わるともう材料がないし、もっといろいろなことが起きて、上げ下げして下がっていきます。過去のバブルは全部そうでした。

何がチャンスかという、バブルの上昇を取れる。それから、上昇の後、もみ合いが続くのですが、実はこれが一番取りやすい。

飯村：そうなのですか。

相場：そうですよ。上がってしまうでしょう？　ここで上がってしまったら、だいぶ上がったから、手じまって現金化する。また上がるでしょう？　でも、もう一回買おうと思っても、こんなに上がった後、今買ったら下がってしまうのではないかと買って買えない。そうしているともっと上がってしまう。だから、結局、大きな上げというのは意外ともうからないのです。

ところが、上げきった後、下げるのは大体 3 カ月ぐらい、上げるのが 3 カ月ぐらいで前の高値ぐらい。もう一回下がるのが前の安値ぐらい。つまり横ばいに上げ下げするから。こ

こは上げと下げが明確だから、非常に取りやすいです。そして、下げというのはひたすら空売りというか、下げを取っていけばいい。

なので、今、この動画をご覧になっている皆さん、そして飯村さんもスタッフもそうですが、成人していらっしゃるから、証券口座をつくることができます。このときに上げのバブルを取り、取りやすいもみ合いを取り、そしてバブルの崩壊も取れる。これがものすごいチャンスです。今、赤ちゃんはこれが取れません。バブルが終わってから。そういうことなのです。

飯村：そのバブルで今後訪れるであろう崩壊は、今までと比べるとどれぐらいのまずい崩壊なのですか。

相場：過去の歴史の中で一番大きな崩壊なのです。また「ほうかい」と言うでしょう。

飯村：言おうと思いました。

相場：どうしてかという、過去のバブルで日銀がこれだけお札を印刷したことはないのですよ。ひたすら印刷しています。そして、どんどん市中にばらまいています。あるところの情報だと、日銀は一般の銀行に「お金を貸しなさい。もし貸し倒れたら、日銀が保障するから」ぐらいのことを言って、どんどん貸し出していて、もうじゃぶじゃぶになっているわけです。ここまでやったことは過去にないのですよ。そして、世の中がどんどんお金がじゃぶじゃぶになります。ですから、モルヒネを打ってももう効かなくなってしまうのです。

そこに 1000 兆円以上の借金があります。ギリシャショックがありましたが、こんなのは比ではありません。世界で一番借金をしています。これがいずれ返せなくなります。例えば飯村さんの月の給料が 50 万円か 60 万円なのに、毎月 100 万円使うことをずっとやっていたら、どこかで破綻します。今、日本の国の税収は、トヨタや三菱何とか、われわれの税金など、みんなから集めた税金が 1 年間で大体 50~60 兆円入っています。

ところが、安倍政権では、国家予算は 1 年で 100 兆円を超えているわけです。50~60 兆円の税金が入ってくるのに対して、100 兆円も毎年使っているのです。これは非常に危ないです。

危なくないと言っている人がいますが、では、その方、自分の給料の 2 倍ぐらいを毎月どこかから借りて使ってください。必ず破綻するでしょう。簡単な話なのです。だから、歴史上で一番大きな崩壊をするのではないかと思います。

飯村：ちょっと恐ろしいですね。

相場：恐ろしいですね。ただ、それまでのバブルと、もみ合いと、この崩壊も取る方法があ

ります。現に私の資産の多くは、過去のバブルの崩壊で取ってきたものなのです。これはまた後々、詳しくお話をしようかと思っています。

飯村：ちょっと個別銘柄についてお伺いしたいのですけれども、例えば東芝や SHARP、西武ホールディングスなどのように、企業の不祥事などで急落する局面があると思うのですが、そういうケースも先生にとってはチャンスですか。

相場：チャンスですね。例えば東芝は粉飾決算絡みで株価を大きく下げました。皆さんも飯村さんもぜひ、東芝のチャートを見てください。先ほどの原理と一緒に。大きく下げた後はもう売る人がいなくなってしまうから、今度は買う人がいるから、少し上がるのです。大きく下げたのを見ているから、少し上がるとすぐに売ってしまっただがるのです。でも、大きく下げたそこまでは下がりません。だって、これ以上安く売る人がいないから。

だから、大きく下げた後は、ちょい上げして、ちょい下げして、ちょい上げして、ちょい下げして、売る人がもういないのだから、やがて買う人が出てきて上がってくるのです。そういう形になります。ですから、大きく下げた銘柄というのはチャンスです。ちょい上げ、ちょい下げを全部取った上に、その後の大きな上げが取れます。東芝は実際、私もやりました。

SHARP になると、今度はちょっと違って、やはり会社自体がどうなるかということです。これはちょっと問題があるのですけれども、SHARP も実は大きく下げて、ちょい上げ、ちょい下げで動いています。チャートを見てください。

それから西武ホールディングスは不祥事ではなくて、サーベラスという筆頭株主が西武の株をたくさん持っているわけですが、これを売り出すということで、筆頭株主が売ることから、どんどん売られるから下がるだろうということで、いろいろな方が売りました。

やはり大きく下げました。でも、東芝や SHARP と一緒です。大きく下げた後、それ以上、売る人がいないのだから、売る人がいなければ、下がらないのですよ。何があっても、売らないのだから下がりません。そうすると、買う人が出てきて上がっていくのです。でも、大きな下げを見た人がちょっと上がると売ってきます。これを繰り返して、最後は上がっていきます。現に西武ホールディングスは大きな下げの後、ちょい上げ、ちょい下げを繰り返して、今、上げ始めています。株価の動きというのはそういう習性があります。これは人間の心理です。

飯村：そうですね。

相場：追ってご紹介しますが、私の投資法はチャートだけです。全てはチャートに現れています。

飯村さんはアナリストだから、いろいろな会社の社長さんに会って情報を聞く。会社の決

算書を読む。その会社の世界の支店を回って情報を得る。その会社の世界中の倉庫を見て、商品を全部使って・・・、でも、その会社の株でもうけることはできません。

そういう全てのことが株価に現れています。不祥事がある前も、徐々に株価に現れます。それから、これから良くなるときも、徐々に株価が下値を切り上がっていきます。ですから、全てはチャートに現れる。これでいけます。私もそれで 30 年やってきましたし、私の弟子たちもそれで成功してきています。ですから、非常にシンプルな考え方ですね。

飯村：なるほど。ということは、チャートだけを見て取引をする。FX でも同じようなことがいえると思うのですけれども、FX でも先生のトレード手法は可能ということですか。

相場：これは FX でも可能です。現に私は、最初は為替ディーラーが出発でした。

ただ、為替の怖さというのを私はよく知っています。世の中で、投資で破産した人に一番多いのが FX です。株で破産したというのは、バブル期に 50 億も 100 億も家を担保に入れて買ってしまったというのではいるけれども、通常の時期では株がなくなってしまったぐらい。

でも、FX は破産も多いし、資金がなくなった方も多いと思います。それから、FX で大きな資産を築いたということは聞きません。例えば主婦が 6 億円、7 億円稼いだというのは聞くけれども、われわれの株の世界では 6~7 億円なんてごろごろいるわけで、本当の大きな資産を築いた人というのは、FX の世界では聞きません。

飯村：そうかもしれないですね。

相場：それ以外に、投資では不動産があります。私もさんざんやりました。レバレッジを利かせてやるのですが、これも私はあまりお勧めしないです。

例えば一生懸命働いて、フィスコでレポートを売って、3 億円たまったとします。よく多くの方が考えるのは、この 3 億円でマンション 1 棟を買って、あとは家賃で悠々自適と思うでしょう？ 3 億円持っている、ちょっと今度、ファーストクラスでロサンゼルスに行こうかなと思えば行けます。それから 3 億円持っている、ちょっと銀座レカンで飯を食おうかなと思っても行けます。

でも、3 億円でマンションを全部出して買ってしまったら、一文無しですよ。50~60 万か 200 万は残っているかもしれませんが。マンションの家賃は、3 億円出すと、東京近辺だと大体年 5%。そうすると 1500 万円です。だから、3 億円でものを買った、ものはもらった。3 億円はなくなっている。それでマンションの家賃が年 1500 万円だけれども、株の税金は 20%、不動産の税金は普通の税額だから、半分持っていられるかもしれません。

そうすると、3 億円持っていた人が年収 800 万の人になってしまうのですよ。それでは銀座レカンに行けない、ファーストクラスでロサンゼルスに行けない普通の人になってしま

います。

では、不動産ではレバレッジを利かせるという方法があって、3億円のマンションを買うときに、頭金 3000 万円を入れて、あとは銀行から借りて、そして買います。そうすると、自分は 3000 万円を入ただけで、銀行が貸してくれるから、家賃は 1500 万円入ってきます。税金を払うなどいろいろやると少なくなってしまう。銀行借り入れだから、家賃が入ってくる半分は銀行に返します。そして、もう半分が残ります。そうすると、3000 万しか使っていないのに、そこそに残ります。

もう 1 棟買おう。もう 1 棟買おう。そうすると、1 棟買ったときに 500 万入ってくるけれども、2 棟目で 500 万、3 棟目で 500 万。10 棟持つと 5000 万入ってくるわけです。そういうことを私はやったからよく分かります。そうすると、元金は大してないのに、レバレッジを利かせて、たくさんの物件を持つことで、印鑑だけでお金が入ってきます。半分は銀行返済です。

ところが、銀行返済をするということは、やがて金利が上がると、自分の手取りが減ってしまいます。銀行に返す分が増えていきます。不動産価格が下落すると、もう返せなくなってしまう。それでバブルのときは破産者が続出したのです。ですから、非常に危ないです。

今、日銀がお札をたくさん印刷しています。アメリカが同じことをやって、そろそろアメリカは利上げすると言っていますが、やがて、同じことが日本でもやがて起こると、レバレッジを利かせて、お金を借りて、いっぱい不動産を、私の友達や弟子でも、銀行から借りて、20 億円分の不動産を買った人もいます。20 億円分だと家賃は年間 1 億円入ってくるけれども、多分 5000 万円ぐらいは銀行に返しています。そうすると、手取りは 5000 万円けれども、税金が引かれます。それから、修繕費がかかります。今度、金利が上がってしまったら、銀行に返す分が増えるから、大したことはなくなってしまうのです。20 億円分持っていたても、家賃が入ってくる分が少なくなってしまう。アメリカの金利が上がったけれども、日本もいずれバブルが膨らんでいくと上がりますから、そうなるとその方も困ってしまうから、早く売った方がいい。

株は今日買って、あしたすぐ売れます。不動産は今日買っても、買い手がつかなければ売れないです。

どこか山の中の避暑地で不動産を買った人が、誰も買ってくれない。でも、固定資産税だけかかる。誰も買ってくれないから、ずっと固定資産税を払い続けなければいけません。私は株で出した利益で不動産をさんざんやったから、分かりました。一番いいのは株という結論です。

飯村：株をやってみたい方も、もちろん今、たくさんご覧になっていると思うのですが、既に株をやっている方もたくさん見ていらっしゃると思うのですね。その中の既に株をやっている方で「いや、損をしているんです」という方も結構多くいらっしゃると思うのですけ

れども、そういう方はどういったことが問題なのですか。

相場：本人の問題ですね。例えば 3 分で 100 万円もうかるだとか、それから寝ているだけでもうかるだとか、いろいろな教材が出ています。飯村さんもお存じだと思うのだけれども、簡単に言えば、大体、教材の半分ぐらいはいんちきなのではないですか。

例えばこういうことです。その教材をつくった作者、先生がその手法で一時期、大変もうかりました。けれど、その手法はいつも使えるものではないのに、一時期もうかった手法が万能なものとして教材を作ってしまった、その教材が役に立たなくなったときにそれを購入した投資家がうまくいかなかったのです。

あるいは先生方がちょっとやったらできて、「これは俺、天才じゃないか」と思って、教材を出しました。でも、それはある一時期、そのときだけもうかった手法だったかもしれません。

株で 200 万ドルもうけたというニコラス・ダーバスという海外の人がいるのですが、この方は最後はこじきになって亡くなりました。それから、有名な『ギャン理論』という本を出しているギャンというファンドマネージャー、トレーダーがいるのですけれども、ギャンさんが死んだときに残したのは 1000 万円でした。世の中でもうかっていない、あるいはいつも使えない手法の教材がたくさん出回りました。

もう一つあるのは、自己流でやっているということです。例えば何でも自己流でいろいろやるとうまくいかないですね。

それから、練習をしない。高校野球で甲子園に出るには県大会で 6 回勝ち、甲子園で 6～7 回勝つと優勝なのです。合計 12～13 回勝つと全国優勝です。でも、実はその 12～13 回の影には、何百何千という練習試合があり、その練習試合の影には何万時間と練習しています。腕立て伏せをやったり、何かやったり、そして全国の頂点に立つのです。

練習をして頂点に立つのに、株式投資で皆さんはどうですか。練習をしないで、いきなり大切なお金をマーケットに張っています。これではうまくいきません。そういう理由があると私は思っていますね。

飯村：それでは、相場先生が実践されているトレード法を伺いたいです。

相場：うねり取りといいます。

飯村：うねり取り。

相場：これは株価が下がっていく。下がってくると横ばいになる。そして、今度は売る人がいないから上がっていく。そして上がると買う人が減ってくるから横ばいになる。そして、売る人が増えて下がる。従って、上げ、横ばい、下げ、横ばい、上げ、横ばい、下げ、横ばい

い。これが右肩上がりになるか、右肩下がりになるか、横ばいになるか分からないけれども、株式市場はこの繰り返しなのです。

どの会社のチャートでも見てください。大体そうなっています。このうねりを取るのがうねり取りです。江戸時代の米相場の相場師が考え出したといわれていて、もう 200 年か 300 年ぐらいの歴史があります。その間の成功者はほとんどうねり取りをやっていたといわれています。

例えばバブルが絶頂期の高額納税者 1 位の是川銀蔵さんや山種証券の創業者である山崎種二さんなど、相場師たちのほとんど、それから名前が出ていないいろいろな、株で食っている相場師たちが今も過去もいらっしゃいますが、ほとんどの方がうねり取りです。成功者はうねり取りなのです。

私はこの方法にアレンジを加えました。うねり取りで有名なのは、林輝太郎（はやしてるたろう）さん。本屋に行くと林輝太郎さんの『うねり取り入門』などがあります。最初、キタロウかと思ったけれども、あれはゲゲゲの鬼太郎ですね。これは本物です。本物けれども、私の弟子も、皆さん、林先生の本を買っても難しくて分かりません。実際にどうやっていいか分からないという方が多いのですけれども、私はそれを分かりやすく皆さんにお伝えしています。

私は林輝太郎さんの弟子なのではないかとよくいわれるのだけれども、そうではないのですよ。だって、うねり取りといったらその手法は江戸時代からあるのですから、林さんというのは大正生まれだから、林さんが考えたわけではないです。私は自分で考えて、これはいい方法だと思って、本屋で立ち読みしたら、林キタロウとあって、後で輝太郎さんだと分かったのだけれども、見たら、俺の考えた方法と同じだと思いました。そうしたら、江戸時代からあるのです。だから、人間が工夫することは一緒なのだなと思いました。

これは普通の方が成功できる。天才トレーダーだけではなくて、普通の方が成功できる手法、これがうねり取りです。

私も大学 2 年生に 60 万から始めましたね。そして、日本郵船という会社がありますけれども、ここだけを 20 年続けて、利益は 20 億円ぐらいになりました。だから、20 年ぐらい前に 20 億円になっていますから、そこそこな感じだと思います。少額の資金からでもこの方法だと始めることができます。

そして、1 日のトレード時間は、

練習をして分かっしまえば、だって、飯村さんがスタッフの中であの人が好み？ 1 秒で分かるでしょう？ あの人が好み？ あの人が好み？ 1 秒で分かるではないですか。チャートを見たときに、これはいける。これはもうちょっと待った方がいい。これはそろそろ終わりだと、熟練になるともう見て分かるのです。ですから、ちゃんと勉強していただければ、チャートなんて、例えば日本郵船のチャートを見たら、何分見ても同じですよ。1 時間見たら変わるかといえば同じなのだから。

だから、5 分で終わってしまいます。

ということで、トレード時間も、お仕事をしながらもできます。それから、30 万円ぐらいから始めても十分、積み上げていただければいけるのではないかと思います。

飯村：本当にどなたでも実践していただける手法なのですね。

相場：そうですね。現に私は実験済みです。3000 人の受講者、弟子がいますけれども、この間もちょうど立食パーティーをやったのですけれども、多くの方から感謝されて、握手を求められるわ、サインを求められるわ、チューされるわ。チューしてくれたのはおばあちゃんですけれども、本当に皆さんに感謝されるのがうれしいですね。

次回以降、実際にチャートでご説明しますが、簡単に申し上げると、局面というのがあって、先ほどから申し上げている下落局面、もみ合い局面、上昇局面。私はこの下落局面を A 局面と言っています。そしてもみ合い局面を B 局面と言っています。上昇局面を C 局面と言っています。今は下落局面にある、今はもみ合い局面にある、今は上昇局面にある。この見分けがつかただけでも、皆さんのトレードに大きな変化が現れると思っています。

飯村：先生、もっと伺いたいところなのですが、そろそろ終了のお時間が近づいてまいりました。

第 1 話を簡単におさらいしますと、今は 5 年で 1 億円を狙えるチャンスです。アベノミクスの上昇局面と、もみ合い局面と、下落局面の全てを取れるチャンス。

相場：よく分かっている。そのとおりですよ。

飯村：そういうことですね。株は当てるものではなく技術だと。

相場：株は技術です。技術ということは、腕を磨けば、どんどん上手になります。自転車の乗り方と一緒にですね。

飯村：練習をすれば、どなたでも、ほとんどの方が身に付けることができる手法ということですね。

相場：実験済みです。

飯村：次回の講座では、具体的に投資方法やポイントについてご説明をしていただけるのですよね。

相場：そうですね。今はお話だけだったけれども、損になりませんから、ぜひ次回、絶対聞

いていただきたいです。次回はこれを知っているだけでも月に 100 万円ぐらい。もう全然大きな話ではありません。聞いていただければ本当だと分かりますが、毎月 100 万円ぐらいの利益が出るのではないかというチャートの見方を一生懸命お伝えしようかと思っています。

飯村：お願いいたします。

この動画の感想をコメントに頂きますと特典がございます。皆さま、ご感想を投稿いただきまして、貴重な特典をぜひ手に入れてください。

それでは、また次回お会いいたしましょう。さようなら。

相場：それでは、また。どうも。